

令和元年6月13日

陳情第3号

居場所作りの促進に関する陳情書

居場所作りの促進に関する陳情書

【陳情趣旨】

私たちは中高生や小学生、乳幼児など様々なカテゴリーに属した子どもの子育てをしています。小田原市には児童館、または児童館に類似する施設がなく、複数の兄弟を抱えた子どもたちと共に過ごす場所がありません。「児童館」のように多世代が利用でき、たくさんの人の目と手がある居場所というものは子どもたちが安全に日常生活を送るためにも、大変重要だと感じております。

①小田原市の小学生の下校時間がランダム且つ前月にしか分からないため、他の兄弟の予定が定まりません。集団で受ける乳幼児健診は午後を設定されることが殆どで、小学生の下校時刻までに帰宅が間に合わないケースもあります。そればかりか、下校時刻がわからないがために下の兄弟の幼稚園の親子遠足に、学校を休ませて連れていかざるを得ない事態になることもあります。

②今年度全校に実施予定の「放課後子ども教室」ですが、片浦小学校以外の小学校では、頻度や対象学年もバラバラです。また夏休み等長期休暇中の実施もされておらず、学校という場所そのものが、利用者を限定してしまっていると感じています。たとえば乳幼児の兄弟やその母親がその小学生と一緒に過ごすことはできません。

これらの問題は放課後に安心して小学生たちが過ごすことのできる児童館があれば、緩和すると考えております。

私たちは市内の公民館を利用して、月に8～10回程度の頻度で多世代交流のできる居場所づくりを実施しております。昨年度は放課後児童クラブから保留通知を受け取った保護者の方々からの問い合わせが増えました。児童福祉という観点で、他市では公が主導して運営されていることが殆どの児童館の機能を、いち市民団体が担っております。しかしこのままでは、その居場所のキャパシティを超えてしまう日が来るかもしれません。またこのような居場所は毎日運営されていることが望ましく、市民団体では限界もあります。つきましては、夏休みや小学校が早く終わる日に近場の公民館の開放など、学区や主要駅の近くに1つはそのような多世代交流のできる居場所の促進、さらには近隣市町村の児童館もしくは類似施設の研究をお願い申し上げます。

【陳情項目】

多世代交流の居場所作りの設置、および近隣市町村の類似施設の研究の促進

令和元年5月28日

小田原市議会議長

奥山 孝二郎 様

提出者

小田原市南鴨宮2-12-14

おだわら児童館連合

岩瀬 裕子 ㊞